

2007年度 カンボジア・スタディツアー参加者報告

(財)日本ユニセフ協会 学校事業部では、カンボジアとモンゴルでの事業を対象にした募金を行い、支援を続けています。毎年、支援国の子どもたちの状況や事業の取り組みを先生方に視察していただき、学校や地域での学習や広報活動に役立てていただいています。今回、2007年度のカンボジア・スタディツアーに参加された小学校の先生の感想とその後の学校での意欲的な取り組みをご紹介します。

*「ユニセフ子ども物語」で、視察内容をご紹介します。



スタディツアー参加者とカンボジア事務所のスタッフ
©日本ユニセフ協会

日程	2007年7月22日(日)～29日(日)
日本ユニセフ協会が支援する事業	長く続いた紛争が終わり、普通選挙が実施されるようになったカンボジアで、子どもの権利を基盤として、幼稚園教育を充実させたり、予防接種の普及、また、安全な水の確保、衛生的なトイレの設置、衛生についての知識の普及などを支援する事業です。
視察概要	①幼稚園・小学校及び教員への支援活動 ②安全な水の確保・衛生的なトイレの設置・衛生知識の普及に対する支援活動 ③保健センターへの支援活動

東京都北区立清水小学校

教諭 佐々木久恵

●視察の動機●

以前から国際的な支援活動に興味があり、自分自身が何か協力できることはないかと思っていました。しかし、その現状については、映像や書物などを通してしか知ることができませんでした。昨年度、日本ユニセフ協会のモンゴル・スタディツアーに参加した同僚からツアーの話聞き、ぜひ参加し、支援を必要とする国の現状を自分自身で見て、考えたいと思いました。また、自分自身が感じ、考えた方が実感を持って子どもたちに伝えられるのではないかと思い、応募しました。



のどかなカンボジアの田園風景
©佐々木久恵

●視察の感想●

この視察で得たことは大きく二つあります。

まず、一つ目は、カンボジアの置かれている現状・子どもたちを取り巻く様々な問題を知ることができたということです。ユニセフが支援する幼稚園や小学校を見学し、就学率は上がってきているが、家庭の事情により進級・進学できない児童も多くいること、小学校就学前教育が大切であることを知りました。また、直接、村の方々の井戸やトイレを見せていただきました。ユニセフの支援で少しずつ衛生的な施設が増え、病気も減ってきたことがわかりました。

二つ目は、たくさんの困難な現状にあろうとも、明るくたくましく協力しながら生きていくことの素晴らしさを感じられたことです。

カンボジアは、ポル・ポト政権による大量虐殺、内戦を経験してきた国です。そればかりでなく今もたくさんの問題を



井戸で楽しそうに水浴びする子どもたち
©佐々木久恵

抱えています。でも、地域社会が協力し合いながら、問題を解決しようと努力していました。子どもたちは「学校が楽しい!!」と、とびっきりの笑顔で微笑んでくれました。学校が終わっても、家の手伝いをしたり、きょうだいの世話をしたり、毎日精一杯生きていることが伝わりました。子どもたちのキラキラと輝く瞳、愛らしい笑顔に出会い、とても勇気づけられました。